

1. スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

上尾市スポーツ都市宣言

上尾市スポーツ都市宣言 (1976.5.2宣言)

改正



(仮称) 上尾市スポーツ健康都市宣言

「スポーツは、心身の健康の保持増進にも重要な役割を果たすものであり、

健康で活力に満ちた長寿社会の実現に不可欠」 (スポーツ基本法前文)

※上尾市ではスポーツ都市宣言以来、市民がスポーツに親しみ、体力の向上に向けたスポーツ施策を行ってきた。このスポーツ都市宣言に「健康」を取り入れ、市民一人ひとりの健康意識の醸成を図り、心身ともに健康で元気な健康長寿社会の実現に向けた施策を強力に推進する



1. スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

児童・生徒の学校教育活動

○上尾市を含む県央地域の児童・生徒の水泳授業や部活動及び大会など、一年を通じた積極的な利用を図る。

【屋内プールの活用による児童・生徒への効果】

- 水泳授業の実施が夏季に限定する必要がなく、天候に左右されない利用が出来る。
- 水泳部の水中での活動が一年を通じ実施でき、個々の能力に応じた細やかな指導、練習が可能となる。
- 児童・生徒の水泳場を利用する部活動の普及振興に繋がる。
- 近隣高等学校の水球部、競泳部等の利用が見込まれる。(秀明英光高校、埼玉栄高校等)
- 上尾市水泳協会等からインストラクターの派遣協力を得て質の高い指導を受けることも可能になる。

【屋内プールの市と県の協働による効果】

- 県営屋内プール施設管理者へ学校水泳指導を外部委託(プール使用料、指導員、送迎料)とした場合
 ⇒小・中学校1校(300人)当たり 委託料337.7万円/年(上尾市試算) × 15/33校(市内小・中学校プール
 老朽化による廃止想定学校数) =約 5,070万円
- 市内中学校水泳部が利用した場合(令和2年度:水泳部のある学校数2/11校)
 ⇒団体使用料2コース 3,370円/2時間(関東圏類似施設を参考) × 24回(月2回/年で試算) × 2校
 =約 16.2万円

県央地域の児童・生徒数(小学校・中学校・高等学校) ※私立学校含む(R2.5.1現在)						(単位:人)
	上尾市	鴻巣市	北本市	桶川市	伊奈町	計
小学校	11,070	5,575	2,726	3,590	2,736	25,697
中学校	5,714	2,929	1,538	1,830	1,559	13,570
高等学校	3,935	1,381	494	1,474	3,611	10,895
計	20,719	9,885	4,758	6,894	7,906	50,162



水泳指導委託イメージ

1. スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

各種大会・教室・スポーツボランティア

◆上尾市では、現在、水中スポーツの普及振興事業の実施がないことから、各種大会・教室の企画を推進する

○上尾市主催、県主催、又は県と上尾市共催の水泳大会を積極的に開催する

○県央地域による市町対抗水泳大会を開催する

○市内文化施設（文化センター、イコス上尾、コミュニティセンター、各地区公民館等）の講座と連携したWスクールを開催する

（例：「水泳教室＋健康講座や文化講座」など）

・上尾市、県、市水泳協会の単独、または共催での開催も可能

○水泳場を拠点に、水泳場周辺にある文化遺産を巡るウォーキング（スタンプラリー等）事業を開催する

◆大会・イベント時におけるスポーツボランティアの確保、協力

○地域ボランティアの協力体制が充実している

・上尾市は、世界陸連の認証取得をしている上尾シティハーフマラソン開催のほか、東日本実業団駅伝や埼玉県駅伝などの大きな大会にも関わっており、積極的にボランティアスタッフとして協力できる

・ボランティア数

上尾シティハーフマラソン：約1,000人、埼玉県駅伝：約150人、東日本実業団駅伝：約150人

○大規模な大会やイベント開催時、多くの外国人が安心して訪れることができるよう、多言語情報提供環境整備を進める



市民水泳大会の開催イメージ

健康増進事業

○上尾市主催の（スポーツクラブやスイミングクラブ等との連携・共催）、子どもから高齢者までの多世代を対象とした各種健康増進教室を開催する

例1：二次予防事業対象者向け元気アップ事業

水中歩行・水中運動などを、無理のない運動負荷の中で行い介護予防につなげる。

水圧や浮力を利用することで、腰痛・膝関節痛等を持つ方にも、より負担の少ない形で運動メニューを提供できる。プール等の施設を持たない事業所でも対象者に事業を提供することができる。

例2：介護予防のための水中エクササイズ教室

強度ごとに教室を分け、水中エクササイズを定期的実施し、一定の期間で終了させる。終了者ごとに自主グループ育成の支援を行い、自主グループが継続的にプール使用できる時間・場所を提供する。

例3：高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（フレイル予防で健康寿命の延伸を目指す）

特定健診を受診している高齢者のうち、肥満や生活習慣病等リスクの高い高齢者を中心に、水中エクササイズのほか、ウォーキングや栄養講座を実施するとともに、歯科、口腔など医療専門職から指導を受ける場所を提供する。

例4：生きがい・健康づくり 埼玉県版ねんりんピックの開催

年代（60歳.65歳.70歳～）ごとに部門を分け、高齢者の水泳レースを市町村対抗などで行う。

例5：生きがい・健康づくり 高齢者が講師の水泳教室

幼児・子どもを対象に、事前に講義を受けた高齢者自らが指導員になる。多世代の交流の場となり、高齢者自身の生きがいになる。

大規模商業施設との連携事業

○商工会議所や大規模商業施設（イオンモール上尾・アリオ上尾など）主催による賑わい創出のイベントを開催する

- 日本を代表する水泳選手（現時点の例：萩野 公介、江原 騎士、松田 丈志、池江 璃花子など）のほか、スポーツ界の有名選手による講演会、サイン会などのイベントを開催する
- 大会チケットの販売やポスターなど、宣伝広告の掲示を行う
- 商業施設内のデジタルサイネージなども活用し、スポーツ関連情報発信スポットを設置する
- 「運動＋ショッピング」など相乗効果のある賑わいづくり



イオンモール上尾
(2020.12オープン)



プールサイドでのトークイベント
開催イメージ

○イオンモール上尾の館内にあるウォーキングコースや、上尾運動公園などの周辺施設と連携した健康増進事業を推進する

商工会議所や地域事業者・生産者との連携

- 大会開催時など、上尾市及び県央地域の商工会議所、観光協会や飲食店と連携し賑わいを創出する
 - ・主要大会やイベント開催時のテイクアウトメニューの提供や農産物の販売（軽トラ市等）など
- キッチンカーによる販売を許可して、大会やイベントを盛り上げるとともに、新規事業者を支援する
- 上尾駅周辺の活性化により、賑わいのある誰もが訪れたい街づくり
 - ・水泳場への来場者は推定で年間約40万人と言われている。（県試算）
水泳場が整備され多くの来場者が訪れることにより、「アッピー通り商店街」など、駅周辺の活性により賑わいが生まれる
- 屋内に花卉ディスプレイを設置し季節の花や観葉植物を飾り、来館者に心地よい室内環境を提供する。また、屋外にも花壇を設置し、市民参加による季節の花の植え込みイベントを開催する ※市外から訪れた方へのおもてなし
- 公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、公園内へのカフェやレストラン等、飲食店や売店など収益施設の設置
 - ※飲食店設置の効果として、賑わいの創出が実現されるほか、治安や安全面の向上、施設利用者層の拡大、利便性の向上、周辺地域の活性化、憩いの場の創出といった効果が期待できる



テイクアウトイベント等の
開催イメージ



市民ボランティアによる
「花いっぱい運動」開催イメージ



【参考】

上野恩賜公園内のカフェ

1. スポーツ・健康を核とした街づくり、賑わいづくり

プロスポーツ資源や地域資源の活用

○地域のプロスポーツ資源を活用した各種スポーツ教室や健康増進教室を開催する

- ・バレーボール（埼玉上尾メディックス）
- ・野球（埼玉西武ライオンズ、埼玉武蔵ヒートベアーズ）
- ・サッカー（浦和レッズ、大宮アルディージャ）

○上尾市出身オリンピック「岡田久美子」選手によるウォーキング教室を開催する

○プロランナー「川内優輝」選手によるマラソン、ジョギング教室を開催する

○桶川市出身パラリンピアン「古屋杏樹」選手との障がい者スポーツ推進連携を行う 「岡田久美子選手」講演会

○水泳王国「オーストラリア」との国際交流事業を行う

（オーストラリアとは、東京2020オリンピック大会柔道チームのホストタウン、中学生交流事業の実績がある）

○医学的なトレーニングやケガ防止についての研究などを埼玉上尾メディックスや上尾中央医科グループと連携して行う

○日本薬科大学との共同による、スポーツや体力向上に向けた調理メニュー（レシピ）の提案や禁止薬物などの意識啓発を行う

○市内業者「井上スパイス工業」の食品スパイスや、障がい者施設「ぶちとまと」の薬膳ジンジャーパウンドケーキ等の共同開発など市内の団体と連携し、食を通じての健康増進事業に取り組む



2. 多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

各種運動施設との連携事業

○水泳場や運動公園陸上競技場、武道館、アイスアリーナ、スポーツ総合センターなど県のスポーツ施設と、市民体育館、市民球場、平塚サッカー場など市のスポーツ施設を併用し、県民の誰もが参加できる大規模なスポーツ大会やイベントを開催する

- ・子どもから高齢者までが参加する、「スポーツチャレンジデー」を開催する
- ・各施設を巡回する、「一日スポーツ体験」を開催する



上尾市平塚サッカー場

(整備地から約2 km)



上尾市民球場

(整備地から約4 km)

○水泳場や運動公園陸上競技場、武道館、アイスアリーナ、スポーツ総合センターなど県のスポーツ施設と、市民体育館、市民球場、平塚サッカー場など市のスポーツ施設との連携事業開催時に、市スポーツ施設を優先的に貸出し、その利用に供することが可能

○水泳場及び周辺施設と連携した上尾版トライアスロン（パラトライアスロン）大会を開催する

○傾斜の緩いスロープ型の歩道橋を設置することにより、運動公園と水上公園が一体的な活用が可能になり、敷地全体を周遊できるウォーミングアップを兼ねたランニングコースとすることもできる

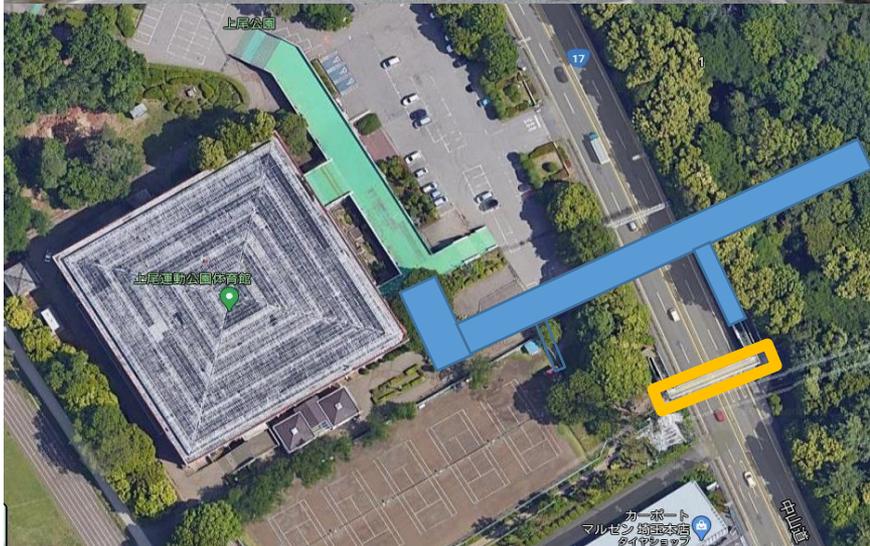
※イメージ図：次ページ

○一体化した園内では、公道を走らず安全に駅伝（市民大会レベル）などの大会開催が可能となる

- ・上尾市民駅伝競走大会出場選手数…約2,000人

2. 多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

《イメージ図：傾斜の緩いスロープ型歩道橋》



参考：代々木公園



※提案する事業については、現時点で財源等の担保、掲載されている個人・団体等の了解がすべて保証されたものとは限りません。

2. 多様なスポーツ・健康増進に寄与するための各種運動施設との連携

障がい者スポーツの推進

- 水泳場、運動公園陸上競技場、体育館、武道館、アイスアリーナ、スポーツ総合センター、市スポーツ施設等を活用し、スペシャルオリンピックス日本大会、関連した全国大会、埼玉県大会（予選大会）を誘致する
 - ※埼玉県では、「上尾市立南中学校卓球部」が全国7校目のユニファイドスクールに選ばれており、毎月、卓球の練習を行ったり、スペシャルオリンピックス日本・埼玉のイベントにアスリートと共に参加している



スペシャルオリンピックス
(水泳競技)

- 桶川市出身パラリンピアン「古屋杏樹」選手との障がい者スポーツ推進事業の連携（再掲）
- 水泳場（周辺の県スポーツ施設含）と埼玉県リハビリテーションセンター及び上尾市の連携により、リハビリサービスの提供、または、障がい者スポーツ大会や教室、イベントなどを開催する（市民体育祭においても、県リハビリテーションセンターの協力により、アキュラシー競技（障がい者スポーツ）の体験コーナーを設置している）

その他の連携

- スポーツツーリズムの取組として、各種施設の特性を活かし、リアルとバーチャルを兼ね備えた「eスポーツ」を通信事業者と連携し、全国規模の大会を開催することで、「eスポーツ」の聖地を目指す
 - ※eスポーツは電子上で行われるゲームの対戦をスポーツ競技として捉えたもの
- 県内でも活発に活動しているAGA（上尾市国際交流協会）との協働によるスポーツを通じて外国人との交流イベントを開催する（県民及び県内在住外国人との国際スポーツ交流）
- 県と市の連携による大規模な防災拠点施設として位置付け整備する
- 上尾運動公園などを利用し、スポーツ会場に入れなかった人のためにパブリックビューイングを開催する

3. 県民の利便性

公共交通機関・アクセス

- 市内循環バス「ぐるっとくん」は、現在、水上公園南北の出入り口付近に停留所がある。利用者の更なる利便性向上を図るため公園内への乗り入れ及び増便を行う
- 民間路線バスが現在、上尾駅東口と水上公園間で直行便を運行している
- 大会やイベント開催時、駅と会場間及び臨時駐車場（市施設等）と会場間を、企業との連携によるシャトルバスでピストン輸送する
- 他市と連携したシェアサイクルを活用し、移動手段を確保する
- JR高崎線上尾駅や埼玉新都市交通原市駅・沼南駅から徒歩圏内にあり、首都高速道路、上尾道路や圏央道のほか、国道16号・17号、第二産業道路などの主要地方道を利用して、県内のどこからでもアクセスが良好である



市内循環バス「ぐるっとくん」
公園内への乗り入れ

駐車場・周辺道路の整備

- 大型バスが、水上公園南口を利用しやすくするため、国道17号・第二産業道路に接続する市道の一部を拡幅する
- 埼玉新都市交通ニューシャトル原市駅から水上公園南口までの市道に、案内看板等を設置する
- イオンモール上尾との連携による駐車場・駐輪場の共同利用ができる
- 市民等の利用を確保するため、公園周辺区域に駐車場の整備を検討する
- 大会やイベント開催時、市役所や文化センターなど市施設の駐車場確保（バスでのピストン輸送も可）
- 水上公園駐車場は災害時のヘリポートとしての活用ができる（上尾市防災計画で位置付けている）

3. 県民の利便性

《周辺駅からのアクセス》

至 熊谷市



至 川口市



①上尾駅 → 水泳場予定地
約 2.1 km 約27分 (徒歩)

②丸山駅 → 水泳場予定地
約 2.1 km 約27分 (徒歩)

③沼南駅 → 水泳場予定地
約 1.8 km 約23分 (徒歩)

④原市駅 → 水泳場予定地
約 1.7 km 約22分 (徒歩)

3. 県民の利便性

《整備地周辺の道路状況》

- ◆現状では、周辺の市道は全て大型車の通行は可能であるが、よりスムーズに通行するための道路整備案
 ①案（新設道路） ②案（拡幅道路）



※提案する事業については、現時点で財源等の担保、掲載されている個人・団体等の了解がすべて保証されたものとは限りません。

4. 県民負担の抑制

収益事業の展開

○上尾運動公園を主会場としている上尾シティハーフマラソン（世界陸連認証レース）と連携した事業を展開する（参加者向け宿泊パック提供：宿泊施設、レストラン、トレーニング室、入浴施設、動作解析室の利用など）

○秀明英光高校（上尾市）や埼玉栄高校など水泳競技で全国レベルの高校をはじめ、聖学院大学・日本薬科大学・大東文化大学など、上尾市と関係の深い大学、県内外の高校・大学・スポーツ団体を対象に水泳、その他の競技のスポーツ合宿の誘致を行う

（プール、科学拠点施設、体育館（県・市）、陸上競技場、スポーツ総合センター、上尾市平塚サッカー場、市民球場などを活用し、集中的、効率的に行うことにより集客効果を上げる）



水泳競技合宿：イメージ

○スポーツイベント（フェスティバル、講演会、サイン会）に合わせ、市の文化芸術イベントを開催する

○民間資金を活用して、水上公園敷地内の森林地帯にキャンプ場を整備する

○市及び周辺市町の観光協会や飲食店との連携事業（再掲）

○商工会議所や大規模商業施設（イオンモール上尾・アリオ上尾など）との連携事業（再掲）

○公募設置管理制度（Park-PFI）を活用し、公園内へのカフェやレストラン等、飲食店や売店など収益施設の設置（再掲）



収益施設：イメージ

4. 県民負担の抑制

建設・維持管理コスト

- さいたま水上公園は県有地であるため、県負担を最小限に留めることができる
- 運動公園陸上競技場、体育館、武道館、アイスアリーナ、スポーツ総合センターが隣接しており、県の総合スポーツ施設として集約した管理が可能

その他

- 平日の閑散時間帯の周辺学校や高齢者による利用
(天候に左右されずに通年利用可能)
- 上尾市を含む県央地域の児童・生徒の授業や部活動及び大会など、
一年を通じて積極的に利用する(再掲)
- イオンモール上尾との連携による駐車場・駐輪場の共同利用(再掲)



水中運動：イメージ

《県営屋内50mプール誘致気運醸成の横断幕・懸垂幕》



東町歩道橋（水上公園入口）



市本庁舎



J R 上尾駅自由通路



J R 上尾駅東口



J R 北上尾駅東口



埼玉新都市交通
（ニューシャトル）原市駅



埼玉新都市交通
（ニューシャトル）沼南駅

上尾市候補地のその他個別の課題

①さいたま水上公園の地下に下水本管が埋設されている

⇒園内の土地利用計画により、協議、検討を行う。

②小学校の通学路への影響

⇒上尾市立東町小学校の通学エリアであることから、園内の土地利用計画に沿った児童の安全な通学路の確保を検討する。

③南側出入口に通じる東西方向市道の安全性向上

⇒来園者の利便性・交通の安全性を調査し、周辺幹線道路までの道路交通環境の整備を検討する。
(3 県民の利便性 駐車場周辺道路の整備【掲載】)

④公園内の市道を通行する車両と公園利用者の安全性向上

⇒現在、園内を南北に横断する道路は、公道ではありません。車両の通行の必要性も含め、地元自治会や周辺住民と共存できる園路となるよう協議を行う。